

河島コンクリート工業
(東京都板橋区)
河島慎吾 社長



右手に持っているのはマスコットキャラクターのピースくん

社員第一の経営に徹す

——先代が急逝され、突然経営を引き継ぐことになり色々な苦労があったのでは。

大学卒業後、建材商社で1年、生コン会社で2年弱それぞれ勤務した後、河島コンクリ

ート工業に入社した。それから10年も経たない32歳の時、先代の父が57歳で急逝した。会社を一緒に支えた母もその2年前、55歳で亡くなり、立て続けの別れとなった。

父の亡き骸を遠方から連れて帰るのに数日が経ち、5日ぶりに河島社の門をくぐった。これまでは家に帰る後にも先にもこの1度だけ、河島家の人間うんぬんではなく、生コン業界の一従事者(部

初代の曾祖父が創業

し、祖父が引き継ぎ、そして父と母が素晴らしい工場を遺してくれたのだということに気づいた。漠然としつつも、「絶対にうまくいく」と確信した。

初めて決算書を見て、見方がわからないなりに営業利益の黒三角が赤字を意味することに気づいた。借入金も多かった。当時、最

表も決算書も見せてもらえず、儲かっているのかどうか口頭ですら秘密にされていたからだ。

初めて決算書を見て、見方がわからないなりに営業利益の黒三角が赤字を意味することに気づいた。借入金も多かった。当時、最

チャレンジする姿勢

設備・技術に積極投資

——経営者として大切にしている価値観や理念は。

経営を引き継いだ当時、事務所でたくさん電話が鳴り響いているのに、受話器を取る人が誰もいないという「悪夢」をよく見ていた。やはり自分一人で何もできない。社員がすべてであり、うちに入って良かったと思つてもらえる会社に入りたい。そして、お客様、協力会社からも当社と一緒に仕事ができるようになっていく。これが私の経営理念だ。

——練り水の冷却装置やディーゼル発電機、二酸化炭素(CO2)をコンクリートに固定させるカーボンキニアな設備投資や新技術の導入に積極的です。

先代もそうだが、業界を良くしたい、変えていきたいとの思いで色々なことにチャレンジしている。自己満足に近いかもしれないが、会社によつて色々な考え方もあるが、みんながみんな同じことをやる必要はないと

他責から自責へ思考の変革を



設備・技術投資を積極化している

最近では金子コンクリート(横浜市)が開発した高流動埋め戻し材「スラモル」の製造・販売事業を始めた。

——若手の強みは、時間の責任は負えない。早世した両親を見ると余計にそう思う。

——生コン事業の将来性をどう考えていますか。

原材料の安定調達、人手不足など経営リスクをあげた方がない。そもそも産業廃棄物が発生するというスキームがこれからは成り立つとは思えない。

先行きの需要も不透明。国が需要を増やしてくれることを懇願している。

しかし、将来を悲観しているわけではない。生コン業界には日本社会インフラを担う重要な使命がある。新規参入が難しい業界なので、我々がやらすとして誰がやるのかという責任感を持つて事業を続けていきたい。

——人手の確保について。

——生コン業界について思うことはありますか。

非常に素晴らしい業界だと思っている。ただ、黒船的なものがないことが要因かもしれないが、チャレンジングの姿勢が弱い気がする。生コンIIS(A5300)では安定して変わりのない製品が求められている。良いところもあるし、逆に変われない、変わらない怖さを感じることがある。

自分たちの経営上のお願いをしているとお客さんは生コンの使用量をいかに減らすというのを考えかねない。そこに不安を感じる。いかに自分の思考・エンジンで動かすかが大事で、他責から自責へと思考を変えていくべきではないかと思っている。

2024年問題の手前に、ドライバーを新たに10名弱採用することができた。平均年齢は35歳で、最若手は25歳。ほとんどが未経験者で、会社負担で大型免許を取ってもらい、今ではしっかり活躍してくれている。4月から新卒女子が入社した。絶対に若手にきてほしいので、昨年度か